



Alter Weekly Order Catalogue

ほんものを たべよう A

2025.8月3週号

提出日
8/ 5 6 7 8
配達日
8/ 12 13 14 15
翌々週分配達日
8/ 19 20 21 22

オルターの提案

- 本当に安全な食べものを手渡すために
- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

健康応援グッズ

皮膚のトラブルや体の痛みに! 韋馱天のように働く 「イダテンクリーム」

有限会社アロエランド

文責 宮尾 岳司(オルター企画部)

「これがなくて困る!」の声

静岡県にある有限会社アロエランドが製造する「イダテンクリーム」には、日々のさまざま 「困った」を解決する不思議な力が秘められています。かゆみ、ぶつぶつ、虫刺されといった肌トラブルから、乾燥によるガサガサ肌、やけど、打撲、肩こり、筋肉痛、痛みといった体の不調まで、幅広いお悩みに活用できます。軟膏のように手軽に使え、ごく少量を肌に丁寧に塗り込むことがポイントです。

「イダテン」という名前は、足の速い神様「韋馱天(いだてん)」のように、体のつらさが早く去っていくようにとの願いが込められています。医薬品ではないため、特定の効果をうたうことはできませんが、多くの人々から「長年のつらさから解放された」「悩みが改善された」「これがないと困る!」といった喜びの声が生産者に寄せられています。

友人のひらめきから始まった開発

「イダテンクリーム」の開発は1994年に遡ります。アロエベラの力に魅せられたアロエランド設立者の宮城 春江さんは、荒れた土地を開墾し、メキシコから取り寄せた野生種のアロエベラの苗を植えることから始めました。アロエベラの魅力を多くの人に伝えたいという想いから、1998年には「アロエランド」を開設しました。

アロエランドには二つの目標がありました。一つは、アロエベラを普段の食事に取り入れられる



「野菜」として広めること。もう一つは、「これがないと困る!」と心から言ってもらえるような、人々の役に立つ力強い製品を作ること。この目標のもと、農家レストランを経営し(現在は閉店)、アロエ製品の開発に力を入れていました。

大きな転機が訪れたのはアロエベラを粉末にする技術の開発に成功したことです。これにより、これまで液体でしかできなかつた加工の幅が広がり、「イダテンクリーム」誕生へと繋がりました。

「イダテンクリーム」の開発には、宮城さんの友人のひらめきが深く関わっています。かつて、水を一滴も使わないアロエ化粧水を作ろうとし

アロエランドのイダテンクリーム

●原材料

- ◎ワセリン(日興リカ(株))
基材、保湿、外部からの刺激から保護、抗炎症
- ◎アロエベラ液汁末(自社栽培アロエ葉肉使用 オルター基準)
保湿、抗炎症、美肌・整肌
- ◎マグマン(植物マグマ原末(黒末)、水溶性植物マグマ末(白末))
豊富なミネラルと抗酸化作用により様々な効果
- ◎トルマリン
血行促進、冷えの緩和、コリや痛みの緩和、代謝促進
- ◎紅塩(ピンクソルト)
保湿、血行促進

※ワセリンで大切なことは純度です。不純物が多いと肌トラブルの原因になります。使用されている日興リカ(株)のワセリン「サンホワイト」は白色ワセリンの中でも特に不純物が非常に少ない高品質のものです

※アロエベラ液汁末1kgを作るのに400kgのアロエベラが必要です。アロエベラの苗が一人前の大きさに育つまでは4年かかります。アロエランドのアロエベラについてはオルターカタログ2017年1月3週号(食べもの百科③139頁)をご覧ください



左からアロエランドの宮城 春江取締役、宮城 尚史代表取締役、宮城 貴一さん

た際に、同業他社からのクレームにより開発が一時中断したことがあります。その話を友人にすると、友人は「他の誰にも真似できない、もっとすごいクリームを教えてあげるよ」と宮城さんに言ったのです。

その友人は釣りが好きで、ある日、海辺で大きな波に打たれても、太い根を張った松の木が岩に根を張りびくともせずに立っているのを見て、自然とミネラルの持つ計り知れない力に感動したそうです。そのひらめきのままに、自然の素材だけを使って作ったものを、波動研究をしている東京の友人に送りました。驚くことに、その友人からすぐに電話が入り、「足の土踏まずに塗つたら体が軽くなつて、まるで氷の上を滑るように進めるようになった。まるでイダテンになつたようだ!」と、興奮した声で伝えられたそうです。

この話を聞いた宮城さんは、このすごいものに、自分が育てたアロエベラの粉末を加えれば、さらに素晴らしいものができると直感しました。そこから、友人の助言を受けながら、素材を厳選し、そこにアロエベラ100%粉末を加えてクリームを完成させました。クリームは特にかゆみに好評で口コミで広がり遠方から多くの人が買いに来るようにになりました。

さらに、販売を始めてから、オルターと出会い、原料にマグマン(植物マグマ原末)を追加するようアドバイスを受け、改良を加えました。改良品は大好評でしたが、クリームの色が植物の灰による黒色で、かかとのひび割れなどに塗るとじに入つた黒色が目立つことが気になつていました。そこで、効果を保ちつつ色を薄くできないかと考えた宮城さんは、オルターに相談し、水溶性の白いマグマンがあることを知ります。高価ではあったものの、この白いマグマンを配合し、従来の黒いマグマンの量を調整することで、色を薄く、しかし効果はより強く進化を遂げた「イダテンクリーム」が誕生しました。

こうして、「これがないと困る!」と言われるような、唯一無二の品ものが完成しました。